

## 北広島団地内小学校の統合についての報告会

と き 平成 21 年 1 月 29 日 (木)

ところ 広葉小学校 体育館

じかん 19 : 00 ~ 21 : 00

参加者 43 名

市長部局 企画財政部長 高橋 通夫  
子育て担当理事 岩泉 功一  
建設部長 二見 孝二

事務局 教 育 長 白崎 三千年  
管理部長 小菅 敏博  
教育施策推進担当参事 工藤 正  
主査 川合 隆典  
主事 木村 洋一郎  
教育相談員 宮村 昭

- 
- 開 会 19 : 00 進行司会 小菅部長
  - 出席者自己紹介 19 : 00 ~ 19 : 05
  - 教育長挨拶 19 : 05 ~ 19 : 10  
北広島団地内小学校の統合及び本日の報告会の主旨説明
  - 統合決定までの経過について説明 19 : 10 ~ 19 : 30  
工藤参事から、資料に基づき説明
  - 参加者からの意見、質問 19 : 30 ~ 21 : 00

事務局 それではこれから質疑応答に入らせて頂きます。

住 民 これまでの説明会にも参加して発言させていただいています。

今の説明の中で、統合問題については住民のコンセンサスを得ながらと言っていました。私達の感触では住民のコンセンサスを十分に得られていない、少なくとも私達のように統合に反対している者もおりますし、大きな声を出さなくとも学校統合に対して疑問を持っている方もおります。なぜかという、今の説明の中でもありましたが、1つ目として、市内のうち、北広島団地の人口だけが減り、児童数が激減しています。これは、団地の人口減少に対して、市の方がまちづくりの有効な

手立てをしてこなかった。一般的な少子化とも違います。説明でも言っていました  
が、増えている地区もあります。ですから、まちづくりの手立てをしてこなかった  
ということが、今の団地の問題になっています。それに対して、教育委員会だけで、  
人口が少なくなっているので小学校を無くしていく形になっています。地域の住民  
としては、このまま有効な対策をとらないままに、小学校がさらに無くなっていく  
ことは、地域の疲弊を招くという懸念があるという大きな問題があります。しかも、  
このような大きな問題があるにも係わらず、教育委員会の議論は通学路の問題や、  
校舎の問題だけで行われています。地域の住民にとっては、このまちをどうしてい  
くかが大きな問題であって、その中で小学校の問題も考えていただきたいというの  
が、多くの方の気持ちだと思います。このことを非常に矮小化していて、学校を無  
くして、どちらの学校を使うかという問題にしていることが、説明会で多くの方に  
進め方について十分に納得してもらえなかったことだと思います。2点目として、学  
校の統合の必要性についても、集団で社会性を身につけるためと言っていました。  
高台小学校と緑陽小学校の場合は、複数学級にできないが、ある程度の人数が確保  
されるので社会性はつくと言っています。現在の広葉小学校と若葉小学校について  
は、人数がものすごく少なくなって、集団的教育ができない状況にはなっていま  
せん。縦割り班の学習などをしながら集団的教育がなされ、社会性がつくような良  
い教育をしていると思っています。これに対し、強引に複数学級にすることに対し  
て納得ができません。このような疑問がありながら、教育委員会の方では通学路の  
問題や、校舎の問題に論点が絞られたと言っていますが、このようなところを論点と  
していることに対して、住民との問題意識に大きなずれが生じていると思いま  
す。そういう意味で私は、教育委員会で説明したものが地域住民の中でコンセンサ  
スを得ていないと考えています。現在、私達は反対の署名を集めていますが、反  
対の署名が多く集まった場合は、住民の意思として受け止めて、学校の統廃合を  
考え直していただけるのか伺います。

事務局 今、質問と意見をいただきました。2点目はコンセンサスを得られているかとい  
うお話だったと思います。説明会の中でもお話をされていて繰返しになりますが、説  
明会では質問等をされた方、一人ひとりの方にお話をして理解を得られるように  
してきました。そのような形で説明会を30回開催しております。特に、4回目の説  
明会では、議論がかみ合わない状況になりましたが、これらの経過も含めて全てを  
教育委員会会議に報告して教育委員に議論をしていただき、今回の結論を出して  
いただいております。教育長からもお話ししましたが、学校統合の決まった内容につ  
いては、平成19年8月1日号の広報におきまして全市民の皆さんに考え方を示し、  
教育委員会の考え方に対しての質問や意見等がある場合はいただきたい旨も出  
しております。また、本年1月1日号の広報におきましても、統合決定についてお  
知らせをしながら、色々なご意見を承るという考え方で進めてまいりました。教育委員会とし

ましては、お話しすべきものは全てお話しし、ご理解をいただく考え方で進めてまいりました。

住 民 確認したいのですが、いくら多くの住民の方が反対しても、考えを変更することは無いと理解してよろしいのでしょうか。

事務局 教育委員会としましては、これまでできうる限りのことをしてきたと思っておりますので、現時点では、このままの考え方で進めたいと考えております。

住 民 今回の統合問題について、教育委員会独自の考え方だけで走っているのか、市全体の構想の下で走っているのか疑問です。最近、北広島団地の活性化委員会ができています。市では、市全体のまちづくりについて市民からの提案を募集しています。少子高齢化の時代にあつて、これから考えていくのであれば、団地の活性化の一因として教育の問題、学校の問題も考えられるべきだと思います。市の行政は、住民・地域に密着することが基本だと思います。縦割り行政ではなく、横の関係が十分図られているのか伺います。

事務局 それぞれの小学校区におきまして、3回から4回の説明会を行なつてきております。その中でも説明をしてきておりますが、団地地区で急激に子どもの数が減ってきていることから、平成15年ごろから議会におきましても色々な議論が行なわれました。教育委員会でも、その時期から具体的に子どもの数の推計などの検討を始め、平成17年6月に通学区域審議会に小学校の適正規模と適正配置について諮問をしました。このころからこの問題についての検討がスタートしています。最初は、子どもたちの教育環境を整えるというところから始まりました。先ほど説明しましたが、教育委員会の考え方が決まりましたので、これからは北広島市として、活性化委員会のお話も出ていましたが、市全体で今後のことは進めていくことになりすし、市民の皆さんのご意見を伺いながら進めていく方向です。

住 民 まちづくり活性化委員会の方で、小学校の統廃合はすべきでないという結論になれば止まるのですね。今回の決定は教育委員会の決定であつて、市全体の決定ではありません。そういうことが今の説明から受け取れました。まちづくりの観点からすると、少子高齢化が団地の中で進んでいて、子どもの数が減っているのに統廃合という現状を是認し、若い人や子どもを増やすという観点から進んでいません。儲かっていないから派遣労働者を切り捨てる大企業のやり方と同じです。一方で、まちづくりの観点から、若い人に魅力があるまちづくりをして、子ども達をどんどん増やす考え方もあります。そこで、まちづくり活性化委員会の今後について注目しているところです。

教育委員会では考えは変えないが、まちづくり活性化委員会の方で現状是認ではなく、若い人たちを増やす攻めの姿勢で子どもたちをどんどん増やす、そのためには小学校の統廃合は中止するということになれば、統廃合は中止する。全市で考えているわけですから、そうなります。

事務局 これまでは教育委員会として教育環境を整えるということから、いままで皆様のご理解を得ながら進めてきました。それで、教育委員会として、今回の学校統合の判断をしました。

住 民 それだけですね。全市的には決まっていない。教育委員会だけの最終決定ですね。それを確認させていただきました。ありがとうございました。

住 民 私は、9月19日の議会を傍聴しました。その際に議員が、学校統合を進める上では保護者・地域住民の合意が必要であると言っておりました。教育長からは、慎重に論議しようと思うので時間をいただきたい、途中々で地域住民や議員の皆さんと相談しながら進めたいと答弁していたと思います。それでは、どのように地域住民や議員の声を聞くのかと思っていましたが、ずいぶんと性急に決定について広報に掲載されました。そこで、議会での答弁との関係はどのように反映したかについて伺います。

また、新しいまちづくりということでこれから色々と議論をしていくと思いますが、先ごろ横浜市で小中一貫教育の実施や、教育委員会からの説明でもありましたが、学習指導要領の大幅な変更により、教育課程で小中の連携が言われています。広葉小学校の場合は広葉中学校と隣接していて、絶好の条件で全国のモデルケースになるかもしれないものを、あっさりと捨てるようなことはもったいないと思います。住民の合意を得ていないと思いますので、議会での教育長の答弁で、慎重に議論するとありましたので、新しいまちづくりや新しい学習指導要領のことを慎重に考えていただきたいと思います。

事務局 議会におきまして、教育委員会の案件などにつきましては、建設文教常任委員会で議論していただいております。これまでも、統合問題について地域での説明会の様子、教育委員会で議論されたことについては、建設文教常任委員会の皆さんと相談をしながら進めてきております。また、議員の皆さんは会派を構成しておりますので、会派ごとに説明をしてきております。

慎重にということは、どのように進めるかについてお話をしたつもりでおります。

教育委員会会議の中で、いきなり決めるのではなく、4回の説明会の内容についてその都度報告はしておりますが、改めて4回の説明会を通しての質問、意見、要望などについて説明をし、どのような審議をしていくかについても各委員と協議をしました。その中で、すぐに答えを出すのではなく、4回の教育委員会会議の中で慎重に審議をしながら、今回の決定をしました。

住 民 私のメモでは、地域住民の声も聞きながらあったと思いますが、どうでしょうか。

事務局 これまで説明会を重ねてきたことを基にしながら、教育委員会会議の中で各教育委員と相談をして、今後どのような形で結論を導くのか、あるいは、再度説明会を重ねるのかについて協議し、最終的には教育委員会会議で判断したということです。

住 民 それでは、9月14日以降は住民の声はそれまでに聞いたということで、新たに聞いていないということですね。9月14日以降に市議会議員会派の方と懇談したということですね。

事務局 今の説明と重なりますが、教育委員会を所管する建設文教委員会があります。説明会や教育委員会会議の状況について報告をしながら、議論もいただいてきています。その都度、必要に応じて対応をできてきております。

住 民 2点ほどお聞きします。1点目は、昨年までの4回は説明会でした。今回は報告会です。どう違うのか、おそらく、今回の報告会は教育委員会での方針は決定しており、その報告をするということだと思います。それでは、これからの意見などについては、何にどう反映されるのですか。また、説明会と報告会ではその意図とする違いは何ですか。

2点目ですが、平成19年に2回、平成20年に2回の計4回の統合説明会をしています。これらは、審議会の答申、教育委員会会議の方針の説明会だったと記憶しています。特に、広葉小学校が無くなり、若葉小学校に統合されることに対して多くの反対意見が出されています。また、審議過程での不信感や説明会のまずさなども多く指摘されました。4回の統合説明会の後に、5回の教育委員会会議で今回の決定がなされました。そこで、4回の統合説明会で住民から出された意見について、どのように総括して、今回の結論になったのかお聞きします。さきほどの説明の中で、教育委員会会議の協議の概要の説明がありました。これは、会議でどのような意見が出されたかの説明であって、説明会をどう総括したかについては触れていません。説明会の開かれた意義を尊重し、有効に活用していくためには、説明会を総括して反省すべきところは反省し、説明会でどのようなことが納得されたかを判断しながら進んでいくことが順序であると思います。そうではなく、説明のしつぱなし、質問に対して答えましたでは、ただ単に住民の反対のガス抜きをしているだけです。それでは住民を愚弄したことになります。

私は、説明会に全て出席しているわけではありませんので、審議会の審議内容、1回目から4回目までの説明会の議事録、昨年9月10日から11月21日までの5回の教育委員会会議録に目を通しています。9月10日から11月21日の教育委員会会議で、説明会での質問や意見を項目に分けて報告しています。その後の会議で、項目ごとに意見が出されていることが確認できますが、説明会での住民の意見がどのように反映されているのかが鮮明ではありません。今回の教育委員会の決定がなされるには、審議会の答申で大方の理解、賛同が得られていると判断しているととらざるをえない。あるいは、今回の結論を出すためには、反対意見もあつたけれども強引に通してしまったということです。説明会の雰囲気は反対意見が非常に多かった。第1住区から小学校が無くなるわけですから反対する人が多かった。他の校区のことはわかりませんが、少なくとも4分の1の校区では反対が多かった。

説明会で出された意見をどのように受け止めているのか、また意見に対してどのように対処しようとしているのか含めて、課題を整理して報告することが必要だと思っています。本来であれば、今日の報告会でそのことが教育委員会から報告されるべきだと思いますが、説明会について教育委員会として総括をして、それに基づいてこのような結論に達したという説明が無ければならないと思います。

そこで、どう総括をされたのか、また、その総括に基づいて今回の結論にどのように結びついたかを説明願います。

事務局 今、2点お聞きになりましたが、まず説明会をどう総括したかについてですが、第1住区につきましては4回の説明会、他の地区につきましては3回の説明会を開催しております。第1住区での4回目の説明会では、論点や課題が絞られてきましたが、議論がかみ合わない状況もあり、これ以上議論を重ねていくことは難しいと判断しました。これらのことを踏まえ、9月10日の教育委員会会議におきまして、説明会で出ました意見、質問などを全て事務局から報告いたしました。その後、報告したものが非常に多いので大きく4つの項目に分けて、10月24日、11月6日、11月12日に項目ごとに教育委員の方々に議論していただきました。最終的に判断したのが11月21日になりますが、ここで総括がされ、方向付けがされたと考えています。

次に、説明会と報告会の関係ですが、説明会につきましては4小学校区全てで、説明会に入る段階で一定の考え方の整理がついた時点で報告をさせていただく約束をしながら、説明会を1年間に渡って開催してきました。昨年11月21日に教育委員会としての最終的な考え方を決定し、12月の議会におきましても教育行政報告の中で報告いたしました。その議会でも色々議論をされてきました。今日は、それらのことにつきまして報告させていただいております。今日の広葉小学校から、4小学校区で同じ内容の報告会を開催いたします。

住 民 教育委員会で総括されたことにつきましてはわかりましたが、説明会をどのように総括したか、説明会の内容がどのようなものであったのか。説明会での住民の意見を参考にしながら教育委員会で決定したのですね。その説明会自身について、教育委員会としてどのように判断したのか、その上でどのように総括をしたのかについて無いということになりますと、説明会も報告会もする意味がないと思います。そのことが無いということが、皆さんの不安、不満となって出てきています。教育委員会に言ってもレスポンスが無い、教育委員会からの回答はあるけれども真摯な回答が無い、まじめな回答が無い。できることはやります、これはできませんという総括をして教育委員会の考え方を作っていくことが必要ではないでしょうか。ご理解いただければよろしいです。

住 民 こちらに平成20年2月の教育委員会の議事録があります。この中で管理部長は、「広葉小学校区から反対意見が出ていて、反対の意見を再度整理して判断してい

なければならないと考えている」と言っています。反対意見に対して耳を傾けようと提案しています。それに対して、ある教育委員からは「教育委員会の考えがぶれてはいけない」と言っています。また、他の委員は「反対意見が多くなれば変わると受け止められます。」と言っています。住民の意見によって変わると受け止められる可能性があるからしないほうが良いと言っています。要するに、教育委員は意見を変える気が全くありません。この会議録を見てそう思いました。人の意見を聞いて結論を変える気が無い、柔軟性が全くありません。少数意見、反対意見に対して耳を傾け、筋が通るものについては採用するべきではないでしょうか。これが積み重なれば結論が変わる可能性があります。そういう姿勢で会議をしなければならぬと思います。私が思うには、教育委員の方々の考えを改めなければならないと思います。改められないのであればやめていただいたほうが良いです。やはり、人の意見を聞いて納得するものがあれば変わらざるをえなくなります。そういう姿勢で、話し合うべきだと思います。説明会で、「統合はもう決まったことなのでは」という声に対し、事務局の方々は「皆さんの意見を聞いて、理解を得ながら行う」と言っていました。しかし、実際に決めている教育委員の方々は、変える気が全く無かった。いかがでしょうか。

事務局 私どもは審議会からの答申を受け、それを基に教育委員会会議で様々な検討を行い、方針を決定しました。その方針について説明をし、理解を得ながら進めていきたいと考えており、そのように進めてきたつもりでおります。

住 民 事務局はそういう考えだと思いますが、この場に出席していませんが、問題は教育委員だと思います。最初から結論を決めていて、おかしいと思います。そう思いませんか。

事務局 会議録を見ていただければ、わかっていただけると思いますが、様々な議論がされています。いま言われたところに関しては、手元にありませんので確認ができません。

住 民 情報推進課からいただいた会議録がこれです。教育委員の人は最初から変える気がありません。これでしたら、説明会や報告会がガス抜きです。結論を最初から変えれとは言いませんが筋が通りません。

事務局では反対意見があるからよく吟味をすと言っていますが、教育委員は拒絶をしています。ですから、その後は反対意見に対する議論が教育委員会ではされませんでした。このような考えは改めるべきです。

事務局 お言葉を返すようで申し訳ありませんが、私ども事務局は最初からそう考えていますし、教育委員の方々も最初から否定するという発言ではなかったと受け取っています。見方によりましては否定するよう見えるかもしれませんが、まさに、自由闊達な議論がされたと思っておりますし、そのことで決まったと言うことではありません。

住 民 教育委員の気持ちは決まっています、住民からどんな反対意見があっても受け止める気がなかったという証明になります。

事務局 この場で、教育委員の方々の気持ちを探って、「決まっていたのではないか」とか「そうではない」と言うことはできません。

住 民 そうなると、前から言っているように教育委員と直接話す以外ないです。決定したのは教育委員ですから。やはり、教育委員の方々が、直接に反対の意見を聞かなければならないと思います。

事務局 会議録を拝見しましたので説明させていただきます。平成20年第2回の教育委員会の会議録です。その内容は、平成20年の教育行政執行方針の内容について議論された中での意見です。教育行政執行方針は、教育委員会として1年間の目標や事業をどのように進めていくかというもので、その協議の中で表現について発言されたものです。それがマイナスイメージとして受け取られているのかもしれませんが。

住 民 それは、あなた方が思っていることであって、文章から読み取ると、教育委員の方々は意見を変える気は最初からありませんでした。それを止められないのは仕方ないことだとは思いますが。私が思うには、この場に教育委員の方々が来ないといけません。

事務局 何度も繰り返になりますが、教育委員が最初からそのような考えであったとは思っていません。会議録を見ていただくと、相当に様々な角度から議論されております。今回の決定を出すまでも3回の教育委員会会議の中で、相当な議論がされています。例えば、意見として多く出たものについては、具体的に一つ一つ取り上げて議論されています。今、言われたようなことがあるのであれば、今回の3回の教育委員会での議論にはならなかったと思います。そういう意味で、最初から教育委員の気持ちは決まっています、変える気は無かったということはありませんので、是非ご理解をお願いいたします。

住 民 ご理解はできませんが、もう一点申し上げます。

議事録を見ますと、広葉小学校と若葉小学校のうち、どちらの教育環境が良いのかという観点から選んだとあります。その考え方自身がおかしいと思います。教育環境に違いはあります。しかし、若葉小学校と広葉小学校に教育環境で優劣があるとおかしいです。例えば、新しい若葉小学校と北の台小学校のどちらの教育環境が良いかを考えることは無いですね。優劣があつたらどちらかを矯正しなければならないです。そういう考え方ではなく、2校を無くして新しい小学校を作るにあたって、どちらの校舎を使ったら良いのかという考え方ではなかったのか、このような状況になっていると思います。

事務局 校舎選定についてであります。通学区域審議会からの答申では校舎選定に言及していません。教育委員会では校舎選定についての基本的な項目を定めました。今の校舎が悪いということではなく、現状の校舎を比較する中で、教育環境的にどちら



の校舎がより良いかという観点で項目を選定して選んでいます。

住 民 その考え方自身が間違えの始まりだったと思います。

住 民 児童が減少して、平成 24 年に学校統合をするということですが、平成 24 年から 26 年ぐらいまでの広葉小学校、若葉小学校の新 1 年生は何人になりますか。

事務局 平成 20 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳から推計しますと、平成 24 年度の広葉小学校の新 1 年生は 26 人、若葉小学校も 26 人です。平成 25 年度は、広葉小学校が 33 人、若葉小学校は 25 人。平成 26 年度は広葉小学校が 37 人、若葉小学校は 13 人となっております。

住 民 大人の立場からではなく、子どもの立場から考えて発言させていただきます。

小規模校のメリットは確かにあると思います。しかし、小規模校ではできないこと。例えば、チームプレーでする体育、サッカーや野球などを経験することが、同じ学年では難しくなります。今、平成 24 年で広葉小学校 26 人と言いましたが、男女に分けますとその半分の 13 人程度になります。また、平成 26 年の若葉小学校は 13 人と言いました。チームプレーの経験が非常に難しくなります。子どもたちがこういう経験をせずに過ぎていくことを考えますと、やはり、学校統合をしてそういう経験をさせてあげることが、子どもの立場から必要だと思います。

住 民 先ほどからお話を聞いていますが、ここに集まっている人のほとんどは、広葉小学校を無くして欲しくないと言っていると思います。教育のあり方とか、色々と説明をしていますが、要はこの学校を無くして欲しくないから、色々な声を上げているのだと思います。それに対して、無くすという決定をした教育委員はどのように考えているのでしょうか。私達は、無くして欲しくないから色々と言っています。教育理論などについて論じたいのではなく、この学校を残して欲しいと訴えていますが、これに関して最終決定をした教育委員の方々は、この住民の声に対してどのように考えているのでしょうか。住民の声をまとめたものとして資料に載っていますが、これは無くして欲しくないから言っているのです。

事務局 議論の中では、母校が無くなる。現在の児童にとっても、卒業生にとってもつらい面があることは心情的にも十分理解できます。しかし、それ以上により良い教育環境を整えることにより、子どもたちにとっては、集団の中で教育活動を展開できる環境を作ることのほうが必要だという判断をしております。心情的な問題として、学校を無くなることに対して問題がないと言っているわけではありません。

住 民 回答に矛盾があるのでもう一度確認したいのですが、より良い教育環境というのは学校を無くすことなのでしょうか。学校こそが良い教育環境だと思います。近い場所に学校があって、そこに通学できることこそが良い教育環境だと思います。その学校を無くしてしまうことで、より良い教育環境になるのでしょうか。

もう一つですが、心情的問題と言っていましたが、そういう方もいるかもしれませんが、さきほども質問にありましたが、地域の疲弊、若い世代の人がどんどん離

れていくのではという観点から学校を残して欲しいという方もいます。残して欲しい理由はたくさんあります。残してほしいという声は一つだと思いますので、そのことについてどのように考えていますか。

事務局 言われていることも理解できますが、集団を大きくして、教育活動を豊かにすることで、子どもたちにとってより良い教育環境にすること・・・

住 民 意見を無視しても統合は進めるべきと考えたのですか。

事務局 意見に対して無視をすとか無視しないということではなく、総合的に判断をいたしました。

住 民 今日は始めて参加させていただきました。私の一方的な意見ですが聞いてください。

まず、言葉で相手の不信感をあおったりする内容が多かったと思います。私がこちらに転入してから 30 年になります。長い小学校・中学校の歴史の中で色々な問題がありましたが、その多くの問題を解決しながら現在の広葉小学校・広葉中学校があります。その間の先生方の指導や保護者の協力によるものと思いますし、すばらしい状況にあると思います。ただ、時代の変化がある中では、反対などの意見が出ることは当たり前だとは思いますが、先ほどから聞いていますと、極端な言い方になりますが、「教育委員会の対応が悪い」ですとか言葉尻をつかまえて発言されています。このことは非常に残念なことだと思います。もっと、大人の責任、親の責任、また自分はどのような責任をもってこの地域に貢献するか、人のためになっていく人になるのだという観点から話をしてもらいたいと感じました。

年寄りの言葉として聞いてください。人というのは世の中、人のためになってはじめて人間としての価値があると、私は教わってきました。そうしますと、意見が異なる、異ならないに係わらず、相手を攻撃するような言葉ではなく、どうしたらお互いに責任を持ちながら仲良く進んでいけるかという論議をしていただきたいと思います。

私はこの地域に来てからの 30 年間のほとんどを、子ども、地域、老人クラブなどのお世話をさせていただきました。もっともっと、人の役に立つような触れ合いをしたいと思います。これからは建設的な意見をお願いします。これは私からの要望です。

住 民 広葉小学校が廃校になることについて、皆さんは反対しているという意見がありました。私自身は、必ずしも小学校が廃校になることを反対しているわけではありません。第 1 住区の住民として、ここに小学校があることによって、小学校が持っている地域社会への寄与、貢献する面が色々あったと思います。近くに小学校があるという安心感があります。そういうものが無くなることによる不安感があります。そのため、小学校が無くなることに対して反対であるという意見があります。そうであれば、その不安をどのように解消するか、不安に対してどう保障するかだ

と思います。もともと小学校が持っていた機能保障すること。例えば、校舎が残るのであれば、地域の方々は小学校があった当時と同じように利用することによって小学校の機能保障を享受できます。前の説明会でも言いましたが、そういうことがなければ住民は納得しません。表面的な部分だけで、お互いの意見をぶつけ合っても解決はしません。なぜそういう意見が出てきたのか、その背景となるものは何なのかについて、まじめに対応をすることが必要だと思います。そういうことを考えていただきたいということが、総括していただきたいということです。

事務局 今言われたことにつきましては、全くそのとおりだと思います。要は、子どもたちにとってどうなのか、地域にとってどうなのかということが大前提で検討してまいりました。ただ、校舎の跡利用についてどうあるべきかについては、団地活性化の議論と合わせながらすべきというご発言だと思います。しかし、統合問題につきましては、教育委員会として子どもたちにとってより良い環境をどのように作っていくかを基本ベースに、通学区域審議会に諮問し、その結果を踏まえながら教育委員会として決定をした経過を説明してきました。通学区域審議会の中で盛んに議論されてきたことは、先に跡利用のことを出すと、誤解を受ける恐れがあることから、まず教育環境を整えるという教育論議を中心に学校統合を考えて、「跡利用でこうなりますので理解をしてください」では、逆に理解が得られにくいという意見が多く出されました。教育委員会でもそのような考え方にたって、学校統合問題について進めてきました。今後、地域の皆様方、あるいは子どもたちにとって、校舎の跡利用をどうしたらよいかという意見をまとめて、結果良かったとなるように進めていきたいと思っております。

住 民 先ほど教育委員会の方から、学校統合をした方が教育環境が良くなると言っていますが、そのところは色々な考え方があると思います。私が一番懸念しているのは、これからまちづくりをしていく、まちづくりの中で教育についても考えていくとすることで、先に学校が無くなってしまいます。平成 24 年からの児童数の推移について言っていますが、平成 21 年から 23 年までは逆に 39 人、48 人、43 人と児童数は増えていきます。平成 24 年から言われたとおりの数字になっていきます。ですから、私達は手遅れになってしまいましたが、まちづくりの取組みを市を挙げてしていただきたいということです。このままでは、住民がどんどん減っていく、子どもの数も少なくなります。これから、市がまちづくりを行なおうという時に、先に教育委員会だけが教育の観点からというだけで、学校を無くしてしまうということは、市全体のまちづくりの観点からいっても整合性がとれないと思います。私も、子どもの数が多くなって、子どもたちの色々なやり取りの中で子どもが育っていくということは良いことだと思います。しかし、小学校が無くなってしまったら取り返しがつきませんので、今ここで平成 24 年に統合することを決めていくのではなく、子どもの数を増やしていくために若い人に来てもらう施策に取組んでいくべ

きだと思えます。ですから、教育委員会の方で小学校を無くしてしまう、ということは整合性が取れないのではないかと思いますし、私は、広葉小学校と若葉小学校の統合についてはストップして、今後のまちの取組みを十分踏まえながら進めていくべきだと思います。反対をしている方には色々な意見があります。広葉小学校が無くなることについて、今も色々な意見がありました。しかし、教育委員会の回答は色々な意見があっても変えないと言っています。それはおかしいと思えます。やはり、多くの市民がおかしいと言うのであれば、もう少し耳を傾けて、考え直して進めても、広葉小学校の現状は手遅れではないと私は思っていますし、団地の活性化も少し遅れていますが、これからがんばってしていかなければならないことだと思います。そういう時期に、広葉小学校を無くしてしまうということは、教育委員会が縦割りで先行してやっているから間違いだと思います。ですから、そのところをもう一度見直していただきたい、もう一度住民の意見を踏まえながら考え直すこともしていただきたいと思えます。

事務局 議会におきましても、もう少し時間をかけて統合を進めるべきだという意見も出されておりました。議会での意見も踏まえながら、各教育委員とも協議してまいりました。しかし、基本的には子どもの数が急激に伸びる要素は考えにくい状況にあります。先ほどから言っていますように、教育環境を整えることが教育委員会の役割ですから、そうしたことから今回の決定をさせていただきました。まちづくりがどうなるかわからない時点で、統合することは問題だということも一つのご指摘だと思います。

住 民 学校統合につきましては、広葉小学校の父兄、若葉小学校の父兄も含めて、色々な賛成、反対があります。その中で、教育委員会はこの問題について決めなければならない事情がありました。教育委員会はそれらの事情、意見などを総合的に検討して決めざるを得なかった、という事実は重く受け止めなければならないと思えます。ただ、先ほども意見が出されていましたが、小学校がこの地域に果たしてきた役割や教育的な機能は、これからの校舎の跡利用、敷地利用の中でどのように生かしていくかが大きな課題になると思えます。今日の北海道新聞によりますと、前半は決定に至るまでの説明会の状況、後半は校舎の跡利用について意見を聞くと載っていました。私も、校舎の跡利用については、地域の住民の一人として意見を持ってきましたが、時間も押していますので、この次の機会に言いたいと思えます。どうか、これからの校舎の跡利用、敷地利用については、教育的な効果の役割を果たした機能を生かされるように十分な配慮をしていただきたいと思えます。

住 民 望ましい教育のあり方として、学校統廃合を考えたと思えます。また、教育委員会では少人数教育を否定するものではないと言っていますが、実際に学校統合をして多人数教育をして、一学年の人数が増えます。そうすると、弱い立場の子どもが埋もれてしまう可能性があり、懸念されます。当然、同じ学年の子どもが増えると

同じ学年の子どもたちとの触れ合いは増えますが、他の学年の子どもたちと接する機会が減ってしまいます。他の学年の子どもたちと接する機会は、今の広葉小学校も若葉小学校もあります。当初は、若葉小学校区の保護者の方々も統廃合に反対していました。その理由は、自分のところが無くなるということよりも、今の若葉小学校の教育を無くしたくないという願いだったと聞いています。その辺の願いを考えていただきたいと思います。若葉小学校の保護者の方々も、そのような気持ちを持っていても、校舎の利用が若葉小学校に決まったから声を上げづらいのです。そのことを具体的に言ってくる方はほとんどいないと思いますが、私の気持ちの中ではそういう気持ちが非常に強くあります。仕事柄、障害をもった方々や病気の方々と接しています。その非常に弱い立場の人を、どうやって生かしていくか。社会構造から多人数だと、どうしても埋もれてしまいます。障害をもっている方々は、非常に苦しい生活をしています。大変な生活をしていて、社会的にも認められていません。同じようなことが学校の中で起こる可能性があります。私はそのことを大変懸念しています。

実は、考える会の会員ですが、個人的には統廃合に対して必ずしも反対ではありません。良い教育をしてくれればそれで良いと思っています。ただ、私は統廃合によって多人数になることが、良い教育だとは思っていません。子どもたちに良い教育を受けさせたいという気持ちは同じだと思いますが、その方法論が全く違います。おそらく、教育委員会は、できる人、強い者の味方でしかないと思わざるを得ません。その辺のところを、ぜひ汲み取っていただきたいと思います。弱い者の立場は逆で、それぞれに目をかけるには少人数で教育をすることです。合併や統廃合してもいいのですが、一クラスの人数を減らしたり、先生の数を増やすことについて、若葉小学校でも要望されていたと思いますので、その点について具体的に考えていただきたいと思います。そうでないと、北広島の小学校の教育は落ちてしまう、と私は考えざるを得ません。そういったことから、少人数教育なり、手厚い教育をしているということで、北広島市を売り出して若い人たちを呼び込むこともできると思います。これからのまちづくりの検討委員会で、もしかすると学校統廃合が無くなる可能性もありますが、そうでなくても教育委員会の方で教育を充実させることを考えることはできると思います。弱い立場の子どもたちにも、きちんとした教育を受けさせることが、私の願いとして忘れないで欲しい。それと、まちづくりの観点から言えば、今の状況を是認してギリ貧になっていくのか、あるいは、攻めの姿勢でいい教育を施すことで若い人たちを呼び込むのかで、大切な岐路に立っていると思います。われわれ市民も含めて、教育委員会の方々も、市の方々も、判断を誤ると北広島市の未来は無いと私はそういうふうに思います。

事務局 非常に貴重な意見をいただきました。私どもの教育に対する姿勢は、一人ひとりの子どもに応じた、個に応じた指導を徹底していくことを基本にしています。その

中で、子どもたちがお互いに人格をぶつけ合ったり、学びあったりしながら、また、子ども同士お互いに高まりあっていくことが非常に重要であります。もちろん、弱い立場の子どももおりますが、集団の中で子どもが高まりあっていくことを大事にしていきたいと考えています。今考えています広葉小学校と若葉小学校の統合後の規模につきましては、大きな集団の中で一人の子どもが埋もれていくような状況にはありませんし、そのようなことも全く考えていません。ただ、いまのご意見は非常に貴重ですので、肝に銘じながら学校づくりを進めていきたいと考えております。ありがとうございました。

住 民 お答えありがとうございました。そのように是非ともお願いしたいと思います。ただ、確率的には統廃合をしないほうが少人数教育になるわけで、申し訳ありませんが、その点では考え方は変わっておりません。でも、よろしく申し上げます。

事務局 もし、また何か発言したい事がありましたら、明日、若葉小学校で報告会を開催いたします。来週も緑陽小学校と高台小学校で報告会を開催いたします。どなたでも参加できますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、今日の報告会はこので終わらせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

(注) 発言を要約したものであり、発言すべてを記述したものではありません。